

現行の大学のアドミッション・ポリシー (入学者受入方針)に関する資料

平成27年3月

高等教育局大学振興課
大学入試室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

目 次

1. アドミッション・ポリシーに関する資料作成のねらい について	1
2. 各大学におけるアドミッション・ポリシーの事例	
○ 事例 1	2
○ 事例 2	4
○ 事例 3	5
○ 事例 4	7
○ 事例 5	8
○ 事例 6	9
○ 事例 7	10
○ 事例 8	11
○ 事例 9	13
○ 事例10	14
○ 事例11	15
○ 事例12	17
○ 事例13	18
○ 事例14	19
(参考資料)	
○ 入学者受入方針に関する現状	20
○ 平成26年12月22日中央教育審議会答申（抜粋）	20
○ 高大接続改革実行プラン（平成27年1月16日）（抜粋）	21

アドミッション・ポリシーに関する資料作成のねらいについて

現在、ほぼすべての大学・学部において、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）の策定が行われているところですが、求める学生像だけでなく高等学校段階で習得しておくべき内容・水準を具体的に定めている大学は約4割にとどまるなど、具体的な内容については一層の改善が求められる状況にあります。

中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」（平成26年12月）においては、新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けて、各大学は、求める学生像のみならず、各大学の入学者選抜の設計図として必要な事項をアドミッション・ポリシーにおいて明確に示すことが必要であることが提言されました。

あわせて、アドミッション・ポリシーに明示すべき点として、以下のようなポイントが示されています。

アドミッション・ポリシーに盛り込むべきポイント

- ① 各大学の強み、特色や社会的な役割を踏まえつつ、大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。
- ② 入学者に求める能力は何か。
- ③ 入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような力を、どのように評価するのか。（どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど）



今回の資料は、現行の各大学のアドミッション・ポリシーのうち、上記のポイントを踏まえてサンプルとして事例を示すものです。

各事例においては、上記のポイントのうち以下の観点を含む内容と考えられる部分について、それぞれに下線を付し色分けして示しています。（文部科学省においてあくまで便宜的に示したものであることに御留意ください。）

- ① **大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか**
- ② **入学者に求める能力は何か**
- ③ **高等学校段階までに培ってきたどのような能力をどのように評価するのか**

文部科学省では今後、アドミッション・ポリシーの改善に向け、平成27年1月の「高大接続改革実行プラン」に基づき、高大接続システム改革会議において更に検討を行い、平成27年度中にガイドラインを作成し、各大学に提供するなどの取組を進めることとしています。

【A大学】

A大学のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

A大学は、理系から文系までの全分野において大学院での研究や教育に重点を置く、日本を代表する基幹総合大学の一つです。その起源は、1876年に設立されたA'に遡ることができます。その伝統から、本学は、帝国大学を経て新制大学に至る長い歴史の中で、「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」という教育研究に関わる基本理念が生まれ、今日まで学問の自主、自由を培ってきました。

この理念の下に、本学は今、新世紀における知の創成、伝承、実証の拠点として発展することを旨とし、教育研究を通じて、人類の福祉、科学、文化及び社会の発展に寄与することを使命としています。そのため、学士課程においては、世界における市民としての自覚をもって社会に参加できること、専門の基礎となる学問やコミュニケーションの方法を身につけること、専門分野を広い視野の下に学ぶことを目指した教育を進めています。それを通じて、国際的に通用する高度な学問的素養をもち、健全な市民としての確かな判断力とリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。同時に、専門的職業人として指導的立場に立つ人材の育成、学術創造に進んで向かう人材の育成も目指しています。

これらを実現するため、A大学は、創設以来、歴史と伝統を継承しながら広く世界に優秀な人材を求め、学士課程教育を受けるにふさわしい学力、すなわち基礎知識・基礎技能・数理能力・語学力・理解力・読解力を備えた学生、また、大学入学以降の学びに必要な問題解決能力・創造力・倫理性・思考の柔軟性・コミュニケーション能力・論理的思考力・リーダーシップ、人間性や学び意欲などを備えた学生を、多様な選抜制度により受け入れています。

文系総合入試のアドミッション・ポリシー

文系への進学を決めたが、まだどの学部が自分に合っているのか決めかねている、あるいは興味がたくさんあり何でもやってみたい、そんな思いをもっている人に受けて欲しいのが文系の総合入試です。総合入試の文系では、入学後1年間で文系・理系を問わない幅広い分野を学び、2年次進級時に自ら進路を選ぶことができます。

例えば、人の心について学びたい人がいたとしましょう。人の信頼感や思いやりといった心を学びたいのなら、文学部が良いかもしれません。

また、子どもたちが発達段階で見せる様々な心の揺らぎを学びたければ教育学部、人の消費行動の視点から学びたければ経済学部、罪を犯す心理に迫りたければ法学部や文学部が良いかもしれません。同じ心理学でも様々な切り口があり、外からではなかなかわかりません。

また、新しい独創性に富んだ研究は、文学部や教育学部といった学部ごとの学問領域を超えた接点からも生まれてきています。政治や環境問題を見てもわかるように、一つの観点や分野だけではなく、複雑に関連する様々な課題を広い視野から考え、判断する力が求められています。総合入試の文系では、幅広い力を身につけながら、自分に合った道を探したい学生を求めています。

事例1 (つづき)

【A大学 (つづき)】

【理系総合入試のアドミッション・ポリシー】

数学や理科は好きだが、自分が学びたい分野がどの学部にあるのか、まだはっきりしない皆さんは多いのではないのでしょうか。また、理系学部に進学したいが、大学で詳しく学んだ上で学部を決めたいと考えている人もいるのではないのでしょうか。そのような人にチャレンジして欲しいのが総合入試の理系です。

総合入試の理系では、入学後1年間で理系・文系から幅広い分野を学び、2年次進級時に自ら進路を選ぶことができます。

例えば、高等学校の化学が得意なら、結合や結晶構造といった基礎が学べる理学部が良いかもしれません。自動車や電池といった生活に使われる“ものづくり”なら、応用化学が学べる工学部、農作物の病害虫の防除であれば農学部、また人の体を治したいのであれば薬理化学が学べる薬学部、医学部や歯学部、その対象が動物や魚であれば、獣医学部や水産学部でも薬理化学は学ぶことができます。

また、私たちは環境問題やエネルギー問題といった様々な要因が複雑に絡み合った問題にこれから立ち向かわなければなりません。そのためには様々な学問の結びつきを理解し、広い視点から解決策を創造していく力も必要です。総合入試の理系は、理系科目を中心にした幅広い学びを通じて、自分の研究分野を探したい学生を求めています。

事例2

【B大学】

(入学者選抜の基本方針)

B大学は、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般入試の他に特別入試として、AO入試、推薦入試、理数大好き学生選抜、社会人入試、3年次編入学、私費外国人留学生入試、帰国子女入試、さらに先進科学プログラム(飛び入学)学生選抜を実施しています。本学の入試では、大学入試センター試験、個別学力検査、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

【理学部】

(アドミッション・ポリシー)

理学とは、宇宙、地球、生命、物質など、私たちを取りまく自然の謎を解き明かし、人類の英知を高めると同時に、広く社会の進歩に貢献することを目指す学問です。

そのためにB大学理学部は次のような人の入学を求めています。

- ・ 自然界の不思議に関心を持ち、それらを解明したいと思っている人
- ・ 理科や数学に魅力を感じ、もっと学びたいと思っている人
- ・ 自然科学を勉強し、社会の様々な分野で貢献したいと思っている人

さらに学問を究めるため大学院を目指すことも期待します。

(生物学科の求める入学者)

生物学科では、さまざまな生命現象や生物の多様性に強い興味をもつ創造性豊かな人を求めています。そして生物学科で得た知識と技術を基にして、社会に貢献できる専門性の高い職業人や研究者をめざす人を希望します。

(生物学科での入学までに身に付けて欲しいこと)

入学後、分子生物学、生理学、細胞生物学、発生生物学、生態学、系統学などの、生物学の様々な専門分野の教育を受けることになります。したがって、高校では、「生物基礎」および「生物」の科目のすべての範囲を学んでおくことが必要です。また、理系の教科の基礎学力だけでなく、論理的な文章を書くための国語力、および自然科学の世界での共有言語である英語の素養を、十分に身に付けることが重要です。

事例3

【C大学】

〇〇大学アドミッション・ポリシー

【使命と教育理念（抜粋）】

本学が目指すのは、自国の歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を引き受けながら、強靱な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。

そのため、C大学に入学する学生は、健全な倫理観と責任感、主体性と行動力を持っていることが期待され、前期課程における教養教育（リベラル・アーツ教育）から可能な限り多くを学び、広範で深い教養とさらに豊かな人間性を培うことが要求されます。この教養教育において、どの専門分野でも必要とされる基礎的な知識と学術的な方法が身につくとともに、自分の進むべき専門分野が何であるのかを見極める力が養われるはずです。本学のカリキュラムは、このように幅広く分厚い教養教育を基盤とし、その基盤と有機的に結びついた各学部・学科での多様な専門教育へと展開されており、そのいずれもが大学院や研究所などで行われている世界最先端の研究へとつながっています。

【期待する学生像（抜粋）】

入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人をC大学は歓迎します。

【入学試験の基本方針（抜粋）】

したがって、C大学の入試問題は、どの問題であれ、高等学校できちんと学び、身につけた力をもってすれば、決してハードルの高いものではありません。期待する学生を選抜するために実施される本学の学部入学試験は、以下の三つの基本方針に支えられています。

第一に、試験問題の内容は、高等学校教育段階において達成を目指すものと軌を一にしています。

第二に、入学後の教養教育に十分に対応できる資質として、文系・理系にとらわれず幅広く学習し、国際的な広い視野と外国語によるコミュニケーション能力を備えていることを重視します。そのため、文科各類の受験者にも理系の基礎知識や能力を求め、理科各類の受験者にも文系の基礎知識や能力を求めるほか、いずれの科類の受験者についても、外国語の基礎的な能力を要求します。

第三に、知識を詰めこむことよりも、持っている知識を関連づけて解を導く能力の高さを重視します。

事例3 (つづき)

【C大学(つづき)】

○高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと

C大学を志望する皆さんには、アドミッション・ポリシーにも明示されているように、本学に入学するまでに、できるだけ多くのことを、できるだけ深く学んでほしいと思います。以下、本学を受験しようと考えている皆さんに向けて、高等学校段階までの学習において、特に留意してほしいことを教科別に掲げます。

(注) 数学のほか、国語、地理歴史・公民、理科、外国語について掲げられている。

【数学】

数学は、自然科学の基底的一分野として、人間文化の様々な領域で活用される学問であり、科学技術の発展に貢献するだけでなく、社会事象を客観的に表現し予測するための手段ともなっています。そのため、C大学の学部前期課程(1, 2年生)では、理科各類の全学生が解析・代数を必修科目として履修し、文科各類の学生も高度な数学の授業科目を履修できるカリキュラムが用意されています。

本学に入学しようとする皆さんは、入学前に、高等学校学習指導要領に基づく基本的な数学の知識と技法を習得しておくことはもちろんのことですが、将来、数学を十分に活用できる能力を身につけるために、次に述べるような総合的な数学力を養うための学習を心掛けてください。

1) 数学的に思考する力

様々な問題を数学で扱うには、問題の本質を数学的な考え方で把握・整理し、それらを数学の概念を用いて定式化する力が必要となります。このような「数学的に問題を捉える能力」は、単に定理・公式について多くの知識を持っていることや、それを用いて問題を解く技法に習熟していることとは違います。そこで求められている力は、目の前の問題から見かけ上の枝葉を取り払って数理としての本質を抽出する力、すなわち数学的な読解力です。本学の入学試験においては、高等学校学習指導要領の範囲を超えた数学の知識や技術が要求されることはありません。そのような知識・技術よりも、「数学的に考える」ことに重点が置かれています。

2) 数学的に表現する力

数学的に問題を解くことは、単に数式を用い、計算をして解答にたどり着くことではありません。どのような考え方に沿って問題を解決したかを、数学的に正しい表現を用いて論理的に説明することです。入学試験においても、自分の考えた道筋を他者が明確に理解できるように「数学的に表現する力」が重要視されます。普段の学習では、解答を導くだけでなく、解答に至る道筋を論理的かつ簡潔に表現する訓練を十分に積んでください。

3) 総合的な数学力

数学を用いて様々な課題を解決するためには、数学を「言葉」や「道具」として自在に活用できる能力が要求されますが、同時に、幅広い分野の知識・技術を統合して「総合的に問題を捉える力」が不可欠です。入学試験では、数学的な思考力・表現力・総合力がバランスよく身につけているかどうかを判断します。

事例 4

【D大学】

1. D大学のアドミッション・ポリシー

D大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であることを使命とし、幅広い教養と高度な専門性を身につけた女性リーダーの育成を目指しています。そのため不断に教育改革を進め、文理融合21世紀型リベラルアーツ教育の導入（平成20年度）に引き続き、平成23年度に複数プログラム選択履修制度を導入して新たな専門教育課程をスタートさせました。D大学では、すべての女性が年齢・国籍などにかかわらず自立した女性として、生涯にわたって多様に活躍できるキャリア形成の場を提供しています。 知的好奇心と探究心を抱き、勉学意欲に富んだ学生の入学を期待しています。

2. 学部のアドミッション・ポリシー

【理学部】

理学部とは、基礎科学の分野を研究対象として、主に自然界の原理や法則の追究を行うところです。本理学部は、数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5学科からなり、少人数ゆえのきめ細かな指導により、高水準の教育・研究を行ってきており、数少ない女子大学の理学部として多くの有為な人材を養成してきました。最近さらに大学院に進む者も多く平均進学率は6割を超えています。このような教育・研究の場に知的好奇心溢れる女性を受け入れ、次世代のリーダーあるいは中核となる人材を育成し、社会に輩出することを目指しています。

本学部志望者には、高校において、理系科目（数学、理科〔物理、化学、生物〕）を学び、論理的思考力を身につけるようにすること、および、自然科学の基礎知識を習得しておくことはもちろんのこと、文系科目（国語、社会、英語）も幅広く履修し、筋道の立った文章が書けることなどが望まれます。 「推薦入試」、「帰国子女・外国学校出身者特別入試」においては、志望学科に関係する各種コンテストなどで活躍した実績も評価します。

3. 学科のアドミッション・ポリシー

【生物学科】

生物学では、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

○前期日程

前期日程では、生物の基礎知識や考え方を判定しますが、それだけでなく、データや図形を理解する能力、それらを組み合わせる能力も判定します。さらに、数学、物理学、化学の論理と知識も重要と考えています。したがって、数学と物理・化学（選択）の試験を課しています。また、学年が上がるにつれて外国語の文献や本を読んだり、外国語で研究成果を発表する機会が多くなります。そのため、外国語試験を課しています。合格判定は、出願書類を参考にし、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で行っています。合計点が同点の場合には、本学の生物の点数を重視します。

○後期日程

大学入試センター試験及び本学の個別学力検査（小論文及び面接）を課しています。大学入試センター試験では、科学に関する幅広い知識と考え方を身につけているかを判断するために、理科に重点を置きます。小論文では、生命現象をさまざまな視点から解析する柔軟かつ論理的な思考力、問題提示及び問題解決能力を備えているかどうかを見ます。面接では、面接担当教員との質疑応答を通して総合的な思考力を判断します。それと同時に生物学を学ぶ意欲も重視します。

【E大学 情報理工学部】

アドミッション・ポリシー

人類の持続的発展のためには、20世紀型物質文明から脱却し、人々が心豊かに生き甲斐を持って暮らせる社会とする必要があります。そのためには「人と人」、「人と自然」、「人と社会」、「人と人工物」のコミュニケーションを基軸とする新たな文明の創造が必須です。

E大学は、そのような新しい社会を「高度コミュニケーション科学」と名付け、それを支え牽引する総合科学技術の分野として「総合コミュニケーション科学」を創造し発展させることにより、21世紀の社会と世界に貢献します。

「総合コミュニケーション科学」の基盤となる理工学分野、特に情報、通信、エレクトロニクス、メカトロニクス等を基軸とする科学技術分野において、国際基準の基礎学力と学士力を身に付け、国際性と実践力を伴う確かな専門基礎力と継続的学習能力を持ち、社会との関わりの中で大きく発展していくことのできる人材を育成します。 そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を広く国内外から受け入れます。

(求める学生像)

「総合コミュニケーション科学」とその基盤となる自然科学に強い興味と探究心を持ち、その学習のために必要な基礎学力を有し、修得した知識と技術を活用して広い視野から社会の発展に貢献したいという意欲に溢れる人

(高校段階での修得が望ましい教科内容と水準)

1. 数学は、基本的な概念や原理・法則を理解し、事象を論理的に考察し数学的に処理する能力を有していること、特に、数学Ⅲまでの履修が望ましく、数学Ⅲまでの微積分の基礎知識を使って、様々な関数のグラフを描いたり、速度・加速度や簡単な図形の面積や体積を求められること。さらに、複素数平面の基礎知識を理解していること
2. 理科は、出来るだけ多くの科目に興味を持ち、正しい自然観・宇宙観が育まれていること、特に、物理基礎、化学基礎に加えて物理、化学の履修が望ましく、物理の分野では、力学、電磁気学、熱、波動などに関連する現象を論理的かつ数理的に捉えてそれを説明でき、化学の分野では、化学結合の概念や物質の構造及び性質を理解し、化学の成果が日常生活の様々なところで役立っていることを認識し説明できること
3. 英語は、基本的な読解力・コミュニケーション能力に加え、平易な英文を辞書なしで読み進んでいくことのできる語彙力・文法力や、あるトピックを一つのパラグラフ程度にまとめることのできる英作文能力を有していること
4. 国語は、自分の考え方を相手に伝えられる基本的な文章力と口頭表現力を有すること
5. 他の教科・科目については基礎レベルの知識・理解を有すること

注：水準はあくまでも高校における学習の目安であり、履修の有無でもって合否判定するものではありません。

事例6

【F大学】

【大学（学部）のアドミッション・ポリシー】

（養成したい教員像）

F大学は、教育者としての使命感と教育愛に支えられた豊かな教養、深い学識及び優れた教育技術を備えた教育の専門家を養成したいと考えています。

教員という職業は、豊かな人間性に支えられた専門職です。その専門性には、子どもたちの学習と生活を支援でき、そして人類の築き上げた文化を全体として理解・把握する、つまり様々な学問分野の考え方を整理・統合し、人間の文化的営みを理解できる総合的な資質・能力が求められています。

F大学は、教科・領域等の多様な授業科目を配置した実践的なカリキュラムを編成し、人間的な視野と総合的な視野を持った専門性の高い教員を養成します。

（求める学生像）

F大学は、教員を目指す強い意志を持ち、協調性や人間性に優れ、積極的に学習を進めていくことのできる学生を求めています。

F大学は、一般入試（前期日程）、一般入試（後期日程）、推薦入試の3つの方法で入学者の選抜を行います。高等学校等における教科・科目の学習を通し、教員を目指すために十分な幅広い基礎学力を修得した学生を求めるため、3つの入試方法とも、大学入試センター試験を課しています。

それに加え、一般入試（前期日程）では、小論文と実技検査を課し、課題探求能力と表現能力に優れ、音楽・美術・体育のいずれかの実技について基礎的な適性を有する学生を求めます。

また、一般入試（後期日程）では、個別面接試験を課し、教職への強い関心・意欲と個人的魅力を持ち、高い基礎学力を有した学生を求めます。

さらに、推薦入試では、集団面接試験を課し、教員を目指すための明確なビジョンを持ち、社会全体への幅広い視野を有し、協調性や人間性に優れた学生を求めます。

事例7

【G大学 工学部地球総合工学科】 (工学部)

G大学のアドミッション・ポリシーのもとに、工学部では、人類社会の現状と将来について深い関心を持ち、その課題発見と解決に貢献しようとする意欲に溢れ、次のような資質を持つ人を求めています。

- (1) 高等学校等における各種の学習内容を幅広く理解している。
- (2) 工学の基礎学問である高等学校における数学、理科を深く論理的に理解している。
- (3) 自分の考えを的確に伝えるための表現力を身につけている。
- (4) 広い観点から主体的に問題に取り組み、論理的に考察することができる。
- (5) 基本的なコミュニケーション力を身につけている。

本学部の入学試験では上記の人材を多面的な評価尺度で選抜するために、(1) に対しては、大学入試センター試験において、国語、地理歴史・公民、理科、数学、外国語を課す一方で、(2) を特に重視した理科、数学、外国語を対象とした配点を採用するとともに、個別学力検査においては、数学・理科・英語の記述形式により (2) - (4) に優れた能力を有している人を選抜するという二段階選抜によって見出します。

さらに、国際科学オリンピックAO入試、帰国生徒特別入試、私費外国人留学生特別入試、化学・生物学複合メジャーコース特別入試等の特別入試や、高等専門学校から本学部3年次への編入学試験では各個人の能力及び (3) - (5) を重視し、多様な選抜試験によって優れた人材を見出します。

(地球総合工学科)

地球という有限な環境の中で生活する人類は、多様な自然や生物と共存しながら豊かな人間社会を持続させて行くために、それを構成する各種の高性能人工物を構築・建造するとともに、その中でどのように生活すれば地球や地域への環境負荷や人間へのリスクを軽減・抑制できるかを工夫しなければなりません。そのためには、人間社会に含まれる多くの現象を分析するとともに再びそれを総合化し、さらに創造していくという高度な能力が要求されます。

地球総合工学科の教育・研究は、このような自然と調和する人間社会を実現するために、自然、人間文化と工学の融合、快適性の追求と有限な資源との調和、最先端技術の創造といったシステムや技術に関する高度な専門知識の継承と発展をめざして行い、地球の持続可能な未来に配慮しつつ魅力的な人間社会を創造できる、高い倫理観を有する人材を養成することを目標にしています。以上のような考えにたち、地球総合工学科は次のような人を求めます。

1. 持続可能な地球環境、自然環境の保全、都市や地域の創造と保全、循環型社会の形成、および船舶・建物・交通・防災関連施設など人間生活の場に現れる人工物について深い関心を持っている人
2. 数学、英語、理科、社会、国語などの高い基礎学力を有している人
3. 「自ら考え、行動できる意欲と能力」、「異文化を理解しコミュニケーションを図り他者と協働できる能力」を持った向上心あふれる人
4. 「柔軟な思考力」、「豊かな感性」、「人間や自然界に対する探求心」などの素養を持っている人

事例 8

【H大学 経済学部】

(教育目標)

経済や経営に関する専門知識を活かし、多様な価値や文化に対する深い理解を背景として、国内外で活躍できる人材を育成します。

1. 専門分野に対する優れた能力

課題を発見し、探求するための専門的知識を学びます。さらに知識を活かすには実務的な処理能力をかねそなえている必要があります。理論と応用が有機的に結合した実行力のある人を育てます。

2. 経済人としての幅広い視野

現在社会が求める経済人は、柔軟な視野にたち、コミュニケーション能力をそなえ、社会と積極的にかかわることのできる人材です。世界の諸文化について幅広い知識を持ち、多様な価値観を理解できるようにします。

3. 情報を分析し発信する能力

今日の社会は複雑化した経済情報、国境を越えた世界中のあらゆる情報に満ちあふれています。必要な情報を迅速かつ的確に収集し、分析する能力を身につけるだけでなく、自ら情報を発信することができるようにします。

(教育内容)

経済学部学生が学ぶ授業科目は、「全学共通科目」と「学部開設科目」に大別されます。

「全学共通科目」は、主に1年次の全学学生を対象に開設する教養教育科目であり、講義形式の科目のほかに、外国語や少人数による演習形式の科目などがあります。

「学部開設科目」は、各学部学生を対象に開設する授業科目で、課題探求能力や実務処理能力を身につけるための科目です。経済学部では学部教育の根幹として、3年次履修の「演習」及び4年次履修の「卒業論文」を必須科目として位置づけています。また、プロゼミナールなど、少人数による演習形式の授業科目も開設しています。

(求める学生像)

本学部では、経済や社会に関するさまざまな現象に関心をもつだけでなく、解決を必要としている問題を発見し、自ら解決できるような知識と技能を修得したいと考えている学生を求めています。具体的には、論理的思考方法、情報の収集およびコンピュータを用いた処理技術、プレゼンテーション技術、コミュニケーション方法などを修得した上で、経済や社会の仕組みに関する専門的知識、企業の経営や戦略に関する専門的知識、会計や税務に関する専門的知識、世界各地の言語、社会、文化、歴史に関する幅広い知識などを修得したいと考えている人、そして以下のような職業に就きたいと考えている人を求めています。

- 官公庁において国や地域の運営や活性化に従事したい人
- 企業における経営や戦略の企画・実践に従事したい人
- 海外での仕事や国際取引に従事したい人

入学を希望する人は、高等学校において、英語・数学・国語を中心とした基礎学力を身に付けておいてください。英語・数学・国語の基礎学力は、次のような理由から必要になります。英語の基礎学力は、大学において国際的なコミュニケーション能力を本格的に養うために必要です。数学の基礎学力は、数学的な推理能力や論理的な能力を必要とする専門科目の講義を受けるために必要です。国語の基礎学力は、講義やゼミナールで文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。

事例8 (つづき)

【H大学 経済学部 (つづき)】

(求める学生像)

入学を希望する人は、高等学校において、英語・数学・国語を中心とした基礎学力を身に付けておいてください。英語・数学・国語の基礎学力は、次のような理由から必要になります。英語の基礎学力は、大学において国際的なコミュニケーション能力を本格的に養うために必要です。数学の基礎学力は、数学的な推理能力や論理的な能力を必要とする専門科目の講義を受けるために必要です。国語の基礎学力は、講義やゼミナールで文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。

(選抜方法の趣旨)

経済学部では、一般入試(前期日程・後期日程)のほか、大学入試センター試験を課する推薦入試やこれを免除する推薦入試など、多様な入学者選抜方式を採用し、これにより多様な人材を受け入れることをめざしています。

一般入試では、高等学校において基礎的な学力を修得した学生を選抜します。推薦入試では、高等学校において一定のレベルの学力を修得したと認められる学生の推薦を求めますが、これに加えて、スポーツ・文化活動、検定資格、生徒会活動なども評価の対象としています。

○一般入試

・前期日程

前期日程では、大学入試センター試験は5教科7科目又は6教科7科目(理科の選択科目によっては5教科8科目又は6教科8科目)とし、個別学力検査等では英語を課しています。

・後期日程

後期日程では、大学入試センター試験は5教科7科目又は6教科7科目(理科の選択科目によっては5教科8科目又は6教科8科目)とし、個別学力検査等では高い分析能力、論理的思考力等を測る小論文を課しています。

○特別選抜

・推薦入試(推薦A)

推薦Aでは、より個性的な受験生、高等学校で多様な活動をした人を求める選抜方法が行われています。大学入試センター試験は3教科4科目とし、大学入試センター試験及び調査書(特記事項)の総合点により選抜します。

・推薦入試(推薦B)

推薦Bは、高等学校で、農業、水産、工業、商業、家庭、厚生、商船、美術、音楽などに関する専門科目を主とする学科を卒業又は卒業見込みの受験生で、人物的に優れた人の入学を許可する選抜方法です。大学入試センター試験は3教科4科目とし、大学入試センター試験及び調査書(特記事項)の総合点により選抜します。

・推薦入試(推薦C)

推薦Cは、明確な経済学部への志向と勉学意欲を持っている人に入学を許可する選抜方法で、小論文、面接及び調査書(特記事項)の総合点により選抜します。

・夜間主コース(社会人入試)

夜間主コース(社会人入試)は、職業に就きながら、夜間に勉学を志す人のための選抜方法で、小論文及び面接の総合点により選抜します。

・私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試は、定められた教育を外国で受けて、経済学部の授業を理解できるだけの日本語能力を身につけた外国人を対象としています。面接及び提出された書類を審査し総合的に判断して選抜します。

事例9

【1大学 医学部】

医学部の基本理念は「患者から学び、患者に還元する教育、研究、医療」です。これは、「医療人は生涯にわたって病める人の身になって病苦と取り組み、人々の健康と福祉に貢献する」という精神を含んでいます。この理念に基づき、医学部は医学・看護学の知識や技術を教育するだけでなく、人間の尊厳を重んじる豊かな人間性と幅広い教養を育み、深い洞察力と生命倫理や生命の尊厳に対する深い認識を備えた医療人の育成をめざしています。また、進歩する医学・医療を生涯にわたり学習し続ける態度を身につけるため、少人数による課題探求型の教育にも力を入れています。地域医療を含む日本の保健・医療・福祉に広く貢献できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて、学校推薦や自己推薦などの様々な入試方法も採用しています。

そこで、医学部は次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・理解、思考・判断)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

(興味・関心・意欲、態度)

1. 人間が好きで、生命に対する倫理観がしっかりしている。
2. 医学・医療に対する意欲や関心度が高く、この分野に貢献したいという目的意識と情熱を持っている。
3. 入学後も、生涯にわたって自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲がある。

(技能・表現)

1. 幅広い人間性、柔軟性と協調性を有し、周囲の人と良好な関係を保つことができる。
2. 自分の考えや行動に責任を持ち、それを相手に明確に示すことができる。

○医学科のアドミッション・ポリシーチェックリスト

(◎=大きい比重、○=小さい比重)

特別選抜(推薦A、推薦B)

審査方法		1)基礎学力	2)倫理観	3)目的意識	4)生涯学習	5)人間関係	6)自己表現
	センター試験	◎					
	小論文	○	○	○	○		◎
	面接		◎	◎	◎	◎	◎

一般入試(前期)

審査方法		1)基礎学力	2)倫理観	3)目的意識	4)生涯学習	5)人間関係	6)自己表現
	センター試験	◎					
	小論文	◎					
	面接		◎	◎	◎	◎	◎

一般入試(後期)

審査方法		1)基礎学力	2)倫理観	3)目的意識	4)生涯学習	5)人間関係	6)自己表現
	センター試験	◎					
	小論文	○	○				◎
	面接		◎	◎	◎	◎	◎

事例 10

【J大学 経済学部】

(求める学生像)

経済学部では以下のような考えや目的をもった学生を求めます。

経済社会における課題を発見し解決する能力を経済学部で向上させ、企業や自治体などでの活動を通じて社会に貢献したいと考える人。

高度な専門知識を身に付け、経済・経営・法律の分野で専門職業人となることを目指す人。

社会の変化に対応するために生涯にわたって学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学習能力を大学で得たいと考えている人。

(入学者選抜の基本方針)

○一般入試

前期日程と後期日程のいずれにおいても大学入試センター試験を課しています。このことによって、高等学校での学習の達成度をみるとともに、大学での学習に必要な基礎学力をもっているかを判断します。また個別学力検査は、前期日程では英語、後期日程では小論文の試験をおこない、経済学部において専門知識をえるための語学力や読み書きの能力をもっているかをみます。

○推薦入試

普通科系の生徒を対象にした入試と商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象とした入試があります。推薦入試は高等学校が勉学態度と意欲の面からみて大学で学ぶ能力を有すると認められた人物に対して行います。1次選考では、調査書によって高等学校での学習の達成度をみます。2次選考では、小論文で社会科学を学ぶための読解力や論理的な文章を作成する能力をはかり、口頭試問によって学ぶ意欲などをみます。商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象にした入試では簿記検定などの検定合格や資格取得といった経済学部での勉学に関連した学習実績も評価します。

○私費外国人入試

日本国籍を有しない者で「日本留学試験」を受験した人を対象に、本学部で日本語試験と日本語による口頭試問を行い、経済学部で勉学できる学力と日本語能力をもっているのかを判断する入試をおこないます。

(高等学校段階で習得すべき内容・水準)

経済システム課程と経営・法律課程に共通して以下のことを期待します。

○関心・意欲

1. 社会で生起している問題に関心をもち、自分の興味の所在や考え方をまとめようとする姿勢をもつことが大切です。

○知識・理解

1. 社会で生起している問題を理解するためには幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって高等学校の主要教科科目の教科書レベルの知識を習得していることが大切です。
2. 大学での勉学を有意義なものとするには、事実や意見などの情報を読み解き、考えをまとめる国語と英語の学力を身につけておくことが大切です。
3. 専門高等学校から進学する方には、普通科目の勉学だけでなく商業科目の基本的な知識と技能を確実に習得し、大学の勉学においてそれらを活かす姿勢が大切です。

事例 1 1

【K大学経済学部】

(教育理念・目標)

経済学部は、「グローバルな視野を持って現代の経済・経営の諸問題を解決できる実践的エコノミストの養成」を教育理念として、グローバル化が進む現代経済社会の諸問題を解決し、社会の調和的発展に貢献する能力を持つ人材の育成を目指しています。このような人材は、広い教養や経済・経営に関する知識をもち、問題解決とその結果の伝達に関する知的技術を身に付け、これら知識と技術、さらに創造的思考を組み合わせ、問題を論理的に俯瞰し、主体的に解決できる能力を備えた人材であると考えています。

(求める学生像)

本学部が教育理念とする人材を育成するために重視する学生の能力および資質は、(1) 学力、(2) 論理的思考力と表現力、(3) 英語を含むコミュニケーション力、(4) 意欲、主体性や行動力、(5) 志望や適性、です。学力は入学後の大学教育に対する基礎学力として重視しますが、断片的な知識の単なる蓄積や記憶力ではなく、論理的に物事を考え表現する力、マニュアル化されていない問題に取り組む意欲、問題探究・解決能力を伴うものでなければなりません。

大学入学はゴールではなく「これから大学で勉強する」といった強い学習意欲、主体性、行動力を発揮する学生にとっての出発点でなければなりません。本学部は、自分の将来像をよく考え、明確な問題意識をもって主体的に学ぼうとする学生を求めます。

(選抜方法)

【一般入試（前期日程）】

- 基礎的学力が体系的に身につけている人
大学入試センター試験、個別学力検査、調査書
- 現代社会の諸問題を理解し、それらの問題解決に関心がある人
大学入試センター試験、個別学力検査、調査書
- コミュニケーション能力を有し、国際的な交流やビジネスの場での活躍を志す人
大学入試センター試験、個別学力検査、調査書
- 学んだ知識や技術を活かして地域社会への貢献を志す人
個別学力検査、調査書

【一般入試（後期日程）】

- 基礎的学力を備え、物事を論理的に考えることができる人
大学入試センター試験、個別学力検査、調査書
- 現代社会の諸問題を理解し、それらの問題解決に関心がある人
個別学力検査、調査書
- コミュニケーション能力を有し、国際的な交流やビジネスの場での活躍を志す人
大学入試センター試験、調査書
- 学んだ知識や技術を活かして地域社会への貢献を志す人
個別学力検査、調査書

事例 11 (つづき)

【K大学経済学部】

(選抜方法)

【アドミッションオフィス入試 (AO入試)】

- 基礎学力、論理的思考力を有している人
自己推薦書, 小論文, 面接
- 経済に関する諸活動に対する強い関心をもっている人
自己推薦書, 小論文, 面接
- 学習・研究に強い意欲をもっている人
自己推薦書, 小論文, 面接
- 目標実現のためにねばり強く努力する資質をもっている人
自己推薦書, 小論文, 面接
- 課題に柔軟に取り組むことのできる能力と資質をもっている人
自己推薦書, 小論文, 面接

【推薦入試】

- 大学入学後の学習に支障のない学力を有する人
調査書, 校長推薦
- 学習に取り組む主体的、積極的な意欲・態度を持つ人
面接, 小論文
- 現代の政治経済の諸課題や文化に強い興味・関心を有する人
面接, 小論文

【外国人留学生入試】

- 明確な目標と将来計画のもとに、勤勉な態度で日本での学習を続けることができる人
面接
- 基礎的学力を備え、物事を論理的に考えることができる人
日本留学試験, 小論文, 面接
- コミュニケーション能力を有し、国際的な交流やビジネスの場での活躍を志す人
日本留学試験, 小論文, 面接
- 日本の社会や文化を理解し、母国との相互理解や友好関係に関心を有する人
日本留学試験, 小論文, 面接

【社会人入試】

- 大学入学後の学習に支障のない学力・修学環境を有する人
志望理由書, 推薦書, 履歴書, 就業証明書, 調査書, 小論文, 面接
- 経済に関する諸活動に対し、強い関心をもっている人
面接, 志望理由書, 小論文
- 学習・研究に強い意欲をもっている人
面接, 志望理由書, 小論文
- 目標実現のためにねばり強く努力する資質をもっている人
面接, 志望理由書

事例 1 2

【L大学 国際教養学部】

(入学者選抜方針 (アドミッションポリシー))

(1) L大学の理念

国境を越えて多面的な交流が進むグローバル化の時代には、多様な価値観や世界観を互いに認め合い、諸問題の解決に努めながら、それぞれが未来を切り拓いていく力が求められます。

こうした認識のもと、L大学は、「国際教養 (International Liberal Arts)」という新しい教育理念を掲げ、英語をはじめとする外国語の卓越したコミュニケーション能力と豊かな教養、グローバルな専門知識を身につけた実践力のある人材を養成し、国際社会と地域社会貢献することを目標にしています。

(2) L大学の特徴

- ①教育重視の立場から、国籍・年齢・性別を問わず教育に熱意と能力のある教職員を広く世界に求め、外国人が半数を占める教授陣により、すべての授業を英語で行います。
- ②異文化体験を通じた国際的な視野とセンスを身に付けるため、1年間の海外留学を義務付け、併せて、全世界から留学生が集う国際色豊かな教育環境とキャンパスライフを提供します。
- ③異文化社会との恒常的な交流を基礎とする世界に開かれた大学として、2014年4月現在44カ国・地域160校の提携大学をはじめ、広く世界の諸大学と連携を深めます。
- ④学生は少数精鋭とし、入学後1年間は全員に寮生活を義務づけることなどを通じて、全人格的な教育を行います。
- ⑤すべての教員への任期制の適用など、教育力を最優先に掲げる挑戦的な大学です。

(3) L大学が求める学生像

本学は、その理念に共感する次のような学生を求めています。

- ①学習意欲が強く、鋭い問題意識をもつ学生
- ②国際社会を舞台に活躍できるような実践的な外国語運用能力 (特に英語) と、幅広い教養の習得を志す学生
- ③世界の多様な文化、言語、歴史、社会、そして経済や環境などの国際関係について、強い関心と探究心をもつ学生

【AO・IB・高校留学生入試】

(出願要件) (注) 要約

1. TOEFL(iBT)61点以上、TOEFL(PBT)500点以上、TOEIC700点以上、英検準1級以上、国連英検A級以上等の英語資格等を保持している者
2. 海外で、日本における高等学校にあたる教育機関に1年間程度在籍し、当該教育機関での学修結果を、日本での所属高等学校における履修単位として30単位程度認められた者
3. 日本国内でIB (国際バカロレア) カリキュラムのDPを修了し、最終試験6科目に合格した者又は見込みの者

事例 13

【M大学 理工学部（AO入試）】

（AO入試概要）

（AO入試制度）

理工学部AO（アドミッションズ・オフィス）入試制度は、一定水準以上の学業成績をおさめ、明確な志望動機をもっており、M大学理工学部を第一志望とする者を対象とする入試制度です。高等学校在学時に勉学・課外活動などで優れた実績をあげ、理工学部入学後、他の学生の範となることが強く期待される者に入学を許可します。

選考は書類選考と面接選考の二段階で行われます。書類選考によって優れた学業成績・活動実績を有すると認められた志願者に対し、面接選考が行われます。面接選考では、学力の確認に加えて、旺盛な知的的好奇心と探究心、豊かで柔軟な発想力、といった資質を備えているかを、十分な時間をかけて審査します。

（出願資格）

履修科目については以下のすべての条件を満たしていること。

- A. 高等学校全期間（卒業見込の者は、第3学年第1学期まで）に履修したすべての教科・科目の全体の評定平均値が4.1以上であること。
- B. 次の科目をすべて履修し、すべての評定が4以上であること。
 - ・教科 数学（以下の5科目の合計が15単位以上）
数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B
 - ・教科 理科（以下の4科目の合計が12単位以上）
物理基礎・物理・化学基礎・化学
- C. 外国語については、英語Ⅰ・英語Ⅱを含み、合計14単位以上を修得していること。
なお、英語Ⅰ・英語Ⅱ以外の科目については、ドイツ語またはフランス語の単位で充当することができます。

事例 1 4

【N大学 商学部】

(求める学生像)

日本や世界の人々が繰り広げる経済活動への幅広い興味を持つ学生を求めます。「好きこそもの上手なれ」というように、興味関心こそ意欲を持って学ぶ上での必要条件です。企業や産業で起きている経済的な出来事(それを伝えるニュース)、組織の中の人々のさまざまな活動や人々の意欲・リーダーシップ、世界経済の現状など、商学部の学問内容につながる経済社会のさまざまな現象に対して、日頃から関心と興味をもつ学生を求めています。

物事を判断・主張・批判する際に、常に明確な根拠(理由)を立てて説明することができ、また複雑な状況を整理し順序立てて記述(発言)することのできる論理的能力(説得力があり、分かりやすい文章が書ける能力)に優れている学生を求めています。

目的意識の明確な学生を求めます。明確な目的意識とそれを実現しようとする強い意欲があれば、多少の能力不足があっても学習に邁進することができ、大きく成長することができます。逆に、意欲に欠ければ学習成果は上がりません。したがって、何のために商学部に入学的のか、入学目的が明確であり、その目的に向かって困難を乗り越え努力しようとする強い意思をもつ人物こそが求める人物像です。たとえば、「経営者・ビジネスリーダーになる」「将来、起業する」「公認会計士、税理士になる」「経営コンサルタントになる」「専門的なビジネス知識を身につけた社会人になる」「大学院に進学して産業・企業活動の研究者になる」「経済人としてグローバルに活躍できる能力を身につける」など、一人一人目的は違っても明確であることが望まれます。

(習得が望ましい教科と水準)

(英語)

経済活動はますます国境を越えて相互に浸透し、グローバル化が今後いっそう進むことは間違いありません。日本企業も欧米にとどまらずアジア、南米、アフリカへと活動領域を急速に拡大しています。また、インターネットによる情報通信手段のグローバル化は、日本国内の経済活動においても、世界各地との緊密な国際的コミュニケーションを行う能力をますます必要とするようになっていきます。企業と産業の経済諸活動に関わる学問を学び、それに関わる人材を養成して社会に送り出すことを目的とする商学部においては、高い英語能力を習得した人物をつよく求めています。望ましい1つの水準としては、実用英語技能検定(英検)2級(あるいはTOEFLテスト、TOEICテストなどの同等水準)以上を挙げることができます。入学までに可能な限り英語力の向上に努力してください。

(数学)

商学部での専門科目の習得と卒業に数学が必須ということはありません。しかし、統計学的能力を身につける上では数学の基礎的能力が必要です。統計学は企業・産業活動を分析し解決策をみずから考える上で必要となります。また、金融、マーケティング、会計など、商学部が開設する一定の専門科目を深く理解し、専門的能力を身につける上でも、数学・統計学の基礎的知識は必要になります。さらに、数学は論理的思考力を育てる上でも非常に大切な科目です。高校生のうちに数学の基本的知識を身につけるように努力してください。

(参考資料)

1. 現状

○入学者受入方針の策定の状況

区分		入学者受入方針を定めている大学数		
		学部ごとの入学者受入方針を定めている大学・学部数		
		大学数	学部数	
大学	国立	82 (100.0)	81 (98.8)	375 (98.4)
	公立	80 (100.0)	80 (100.0)	173 (100.0)
	私立	579 (100.0)	577 (99.7)	1,618 (99.0)
	計	741 (100.0)	738 (99.6)	2,166 (99.0)

○入学者受入方針の明確化の状況

区分		求める学生像だけでなく、高等学校段階で習得しておくべき内容・水準を具体的に定めている大学数
大学	国立	58 (70.7)
	公立	27 (33.8)
	私立	231 (39.9)
	計	316 (42.6)

文部科学省大学入試室調べ(平成24年度入試)

2. 中教審答申(抜粋)

2. 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた改革の方向性

(1) 各大学のアドミッション・ポリシーに基づく、大学入学希望者の多様性を踏まえた「公正」な選抜の観点に立った大学入学者選抜の確立

何よりも重要なことは、個別選抜を、画一的な一斉試験で正答に関する知識の再生を問う評価に偏ったものとしたり、入学者の数の確保のための手段に陥らせたりすることなく、「人が人を選ぶ」個別選抜を確立していくことである。「人が人を選ぶ」個別選抜の確立とは、高等学校教育で身に付けた「生きる力」「確かな学力」をいかに大学教育で発展・向上させ、社会へと送り出していくかという観点から、大学の入り口段階で求められる力を多面的・総合的に評価するという、個別選抜本来の役割が果たせるものにするということである。

① 各大学の個別選抜改革

(アドミッション・ポリシーに基づく個別選抜の確立)

各大学は、求める学生像のみならず、各大学の入学者選抜の設計図として必要な事項をアドミッション・ポリシーにおいて明確化することが必要であり、高等学校及び大学において育成すべき「生きる力」「確かな学力」の本質を踏まえつつ、入学者に求める能力は何か、また、それをどのような基準・方法によって評価するのかを、アドミッション・ポリシーにおいて明確に示すことが求められる。

アドミッション・ポリシーの策定に当たっては、各大学の強み、特色や社会的役割を踏まえつつ、大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのかを明らかにした上で、個別選抜において、様々な能力や得意分野、異なる背景を持った多様な生徒が、高等学校までに培ってきたどのような力を、どのように評価するのかを明示する必要がある。

また、「確かな学力」として求められる三要素を総合的に評価する視点を担保するため、どのような評価方法を活用するのか、学力の三要素全てを評価の対象としつつ、特にどういった要素に比重を置くのかを、大学入学希望者に対して明確に示していくことが求められる。

【新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(平成26年12月22日中央教育審議会答申)】

2. 中教審答申（抜粋）

3. 改革を実現するための具体策（「高大接続改革実行プラン（仮称）」の策定）

① 各大学における個別選抜改革と教育の質的転換を実現するための、実効的な政策手段（支援策）

前述のアドミッション・ポリシーの法令上の位置付けと合わせて、各大学のアドミッション・ポリシーの内容を充実するための取組を支援することが求められる。

このため、各大学の特色等に応じ、どのような力をどのように評価するのかを明確にした具体的なアドミッション・ポリシーの在り方について、平成26年度中に先進的な事例を取りまとめた事例集を作成すること

3. 高大接続改革実行プラン（平成27年1月16日）【抜粋】

1 各大学の個別選抜の改革

【改革の方向性】

多様な背景を持った学生の大学への受け入れが促進されるよう、大学入学希望者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する大学入学者選抜の改革を行う。

特に、各大学の個別選抜において、それぞれの大学の教育カリキュラムや教育改革と連動した入試改革を進めるため、各大学の教育理念やアドミッション・ポリシーに基づき、学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を踏まえた多面的・総合的な選抜方法をとることを促進する。このため、新たな大学入学者選抜のルールを構築するとともに、各大学の入試改革に対する評価の推進や支援の充実を図る。

(3) アドミッション・ポリシーの明確化

○アドミッション・ポリシーに関する先行する多様な取組事例を収集した事例集を作成し、各大学に提供する。【平成26年度中に事例集を作成】